

1 日時

令和6年3月14日（木）午前10時～午前11時30分

2 場所

碧南市民図書館2階 会議室

3 出席者及び欠席者

(1) 出席委員

宮本美枝子、浅井久夫、角谷竹虎、加藤智子、中原大輔、蛭川洋一、小島逸男、  
松崎三津江

(2) 欠席委員 三嶋晴子、岩瀬亜美

(3) 事務局職員

教育長：生田弘幸、生涯学習課長：鈴木善三、  
市民図書館館長：大橋幹広、南部分館長：関 由香、  
中部分館長：長谷川有里、市民図書館副館長：長田和子

4 傍聴者

0名

5 協議会内容

(1) 教育長あいさつ

(2) 会長あいさつ

(3) 議題

- ① 「碧南市の図書館サービス計画（第二次）」の進捗状況について
- ② 令和6年度の事業計画について

(4) その他

6 会議内容

**【事務局】**

それでは、「碧南市の図書館サービス計画（第二次）」の進捗状況について報告をさせていただきます。

まず、この「碧南市の図書館サービス計画（第二次）」というのは平成29年（2017年）4月から令和8年（2026年）までの10年間の図書館サービスの計画となります。

今回は令和4年度分の進捗状況をご報告いたします。時間の都合もありますので、主な事業のみの報告とさせていただきます。

この「碧南市の図書館サービス計画（第二次）」は4つの大きな柱になっており、その柱は表の一番左側の縦書きの部分、1ページでは「1. 豊かな情報源としての図書館」、2ページ「2. 誰もが利用しやすい図書館」、3ページの「3. 地域の歴史や文化・産業をはぐくみ、

次世代へつなぐ図書館」、そして「4. 市民とともに進化する図書館」です。

まず、1ページ「1. 豊かな情報源としての図書館」の中の「(1) 資料の収集」の中にあります。「雑誌スポンサー制度の導入」に関しまして、この令和4年度に規程を作成し、令和5年4月1日より導入を開始しました。表にありますとおり4年度中には1件の申請があり、令和5年度にも1件申請があり現在2件で3冊の雑誌についてスポンサーがついています。

続いて「(3) インターネットを使ったサービスの活用」の「持込パソコンの電源確保や館内W i f i 導入」に関して令和3年11月に本館にW i f i を導入いたしました。コロナ禍で座席の使用制限をしていましたが、現在は7席すべて利用可能となっています。なお、この進捗状況の表にはありませんが、新しいデジタルコンテンツとして令和3年11月から「碧南電子図書館」をスタートしています。

「(4) レファレンスサービスの強化と活用」ですが、レファレンスとは、資料の相談業務です。「求める情報をどう探せばよいかわからない」また、「検索したが、資料がどこにあるのか探せない」といった際にご利用いただくものになります。コロナ対策で休館していた令和2年には数字が下がりましたが、少しずつコロナ以前の数字にもどってきています。

次に、「(5) ①ホームページ利用のPR」と「分かり易く、魅力的なホームページづくり」の実績についてになります。お手元の資料では実績数が入力されていませんが、これは令和3年度まで利用していた「HPへのアクセス数」をカウントするサービスが終了してしまい、現在アクセス数をカウントできる別の方法で当館に適したものを探している状況のため、実績がカウントできない状態となっています。口頭での報告となりますが、参考までにインターネットを通じての資料の予約件数は3年度は35,491件、4年度は36,049件と件数的には増加していますので、ホームページへのアクセス数は例年どおりの件数は維持できていると考えています。

続きまして2ページ「2. 誰もが利用しやすい図書館」について報告いたします。

「妊娠期の保護者を対象とした図書館PR行事の検討と実施」に関して、令和4年度から「妊娠期におすすめの本」「あかちゃんが誕生してから楽しめる本や行事」を紹介PRするため、保健センターでは母子手帳配布といっしょにチラシを渡していただき、市内の産婦人科医院へもチラシ配布設置協力をお願いすることを開始しました。この効果があつてか、毎月1度の1歳くらいまでのあかちゃんとその保護者を対象とした『絵本の時間』という行事では、担当者から「最近参加者が多くなっている」という声を聴いています。また、おむつ替えベッドも用意し、授乳専用の部屋はないですが、希望があつた場合にすぐに対応できるような体制をとっています。

また、「(1) 子ども・ヤングアダルト」のうち、ページの中ほどになりますが、「としょかんキャラクターへきにやごを活用したPR」は人気のあるPR方法で、ここ数年はコロナの感染防止のため、着ぐるみの使用を控えていましたが、コロナ対策の見直しに合わせて少しずつ登場回数を増やし、好評を得ています。

同じページの下の方、「(1) ③シニア層へのサービス」ですが、往年の名作などを読みやすい版で提供するよう心掛けており、文庫本の買い替えを進めております。昨年度は411点の文庫本を購入しました。また、シニア世代の利用を意識した資料「大きな文字でわかりやすいパソコン入門」という本、また、高齢者の免許証更新に関する資料のレファレンスを多く受けるため、「この一冊で必勝！認知機能検査&運転技能検査」などの認知機能検査、運転技能検査に関する資料の購入も行いました。

続いて3ページに記載がありますが、「(3) 多文化サービス」のうち、一番下の項目「外国語で書かれた行政資料の収集」ですが、紙での提供がなくなったため、図書館での受け入れもなくなりました。これは、市役所がホームページ上で翻訳機能を付加したためです。

続いて「3. 地域資料の収集と保存」に関してですが、こちらでは、地域の歴史と文化をはぐくむ目的で資料の収集等を実施しています。令和4年度は255件の資料の受入を行いました。この中に「記憶の中の碧南ことば」という図書があり、碧南在住である著者を講師に招いて「へきなんことば」に関する講座をおこない地域文化のPRを実施しました。

そして最後「4. 市民とともに進化する図書館に関連して」の報告となります。表に記載はありませんが、令和4年度、碧南市全館で10,498冊の資料を受け入れました。碧南市へ転入してきたという本館利用者の方から、文学だけでなく色々なジャンルの本がそろっていて以前に居た自治体の図書館より使いやすいという話を頂いています。引きつづき利用者層にあわせた選書を行ってまいります。また、高齢の利用者からは「図書館で勉強させてもらっていた孫が無事に上の学校に合格できました」という嬉しい報告もありました。

このように市民のためになる、親しみのある、使いやすい図書館になるよう、計画に沿って図書館運営を行ってまいります。

以上で議題(1)「碧南市の図書館サービス計画(第二次)」の進捗状況についての報告を終わります。

## 【会 長】

ありがとうございました。いまの報告につきまして、質問等がありましたらお願いします。

## 【委員A】

私もよく図書館を利用しますが、だいたい館内を回るコースが決まっています。利用者の皆さんがどんな本を読んで何を感じていらっしゃるのか興味があります。「どういった本から何を得られたか」というデータがありますか。

## 【事務局】

例えば、シニア世代がどういった分野の本を読まれているか等の一覧を出せるとは思いますが、それを提示してはいません。

## 【会 長】

4 ページの「令和3年度アンケート実施」では、「こういう本を読んで感動した」等の具体的な回答を得ましたか。

## 【事務局】

アンケートの回答の詳細については昨年度報告しました。自由記載欄がありましたが、感動した具体的な本のタイトルの記載はありませんでした。

## 【会 長】

読まれている本に関する世代別統計については、カウンターで問い合わせればわかるのですね。ほかに質問はありますか。

無いようですので次の議題に行きたいと思います。次は「令和6年度図書館の事業計画について」お願いします。

## 【事務局】

「令和6年度市民図書館事業計画」についてご説明します。

「そこへ行くのが楽しくなるような図書館をめざして」を基本方針に文化創造と生涯学習の一拠点として市民等に資料と場を提供するため、図書館資料の充実と図書館活動を積極的に推進し市民等に親しまれ、利用しやすい図書館運営に努めてまいります。

施策としまして、1. 図書館利用促進事業（1）感染症対策に努めながら、市民の読書活動を支援する。（2）利用者の欲求、動向を的確に捉え、おはなし会、展示会、講座等各種事業を開催する。（3）子どもの読書活動を推進するため、保健センター、小中学校、幼稚園、保育園等との関係強化に努める。（4）図書館友の会、おはなしボランティア、音声訳ボランティア等の図書館ボランティア活動を支援する。（5）「碧南市の図書館サービス計画（第二次）」に基づく具体的な取り組みを実施する。（6）「碧南市子ども読書活動推進計画（第四次）」に基づく具体的な取り組みを実施する。（7）電子図書館を管理運営し、幅広い層へのサービスに努める。（8）の年間行事に関しては、各館の担当者からご説明させていただきます。

まず、本館の主な行事についてです。ボランティア団体や司書による定例の「おはなし会」や1歳未満児とその保護者を対象に絵本の読み聞かせや選び方を紹介する「絵本の時間」を引き続き実施していきます。ここ近年では、参加者の低年齢化が顕著ですので当日の参加者の年齢に合わせて対応できるように工夫しています。また、4月23日が「子ども読書の日」と制定されているので、それにちなんだイベントとして本館ではクイズを実施する予定です。5月には、学校や園などで読み聞かせの活動をしている方やこれから活動を始めたい方を対象に、読み聞かせの基礎やコツなどを学ぶ「おはなしボランティア養成講座」を実施します。ボランティア向けの講座といたしましては、秋ごろに「音声訳ボランティア養成講座」も開

催予定です。6月には、全館挙げて「こどもとしょかんまつり」を月間行事として開催します。また、成人を対象にした俳句講座を図書館講座として開催する予定です。図書館講座は、年度内にもう1回開催予定です。少し進みまして、夏休み行事ですが、いくつかのイベントの中で「としょかんビンゴ」をご紹介します。読んだ本の分類番号にチェックを入れることで完成させるもので、様々なジャンルの本に触れてもらいたいという意図で工夫しました。

11月は、秋の読書月間で「へきにゃごまつり」を月間で開催し、令和5年度に実施して大変好評でした「夕暮れ時のおはなし会」を予定しております。こちらは、閉館後、図書館内の照明を落とした状態で読み聞かせを楽しんだ後に、子どもたちに夜の図書館の中を探検してもらうというイベントです。また、中高生をターゲットにしたイベントとしては、「図書館司書×(エックス)からの挑戦状」というクイズラリーを実施します。こちらは、例年秋に開催していたのですが、秋はイベントが重なりますので、来年度は、試験的に3月に予定しております。イベントに関しましては、参加状況を見て時期や開催方法を検討しながら利用者の興味を引くような行催事を行ってまいります。本館の主な年間行事は以上です。

次に、南部分館の来年度の事業計画をご説明いたします。南部分館は利用者のほとんどが大浜地区にお住まいで「地区の身近な図書館」という感じです。年間行事に関しましては、資料をご覧ください。毎年、同じようなルーティーンで開催しておりますが、内容は吟味しております。行事は、図書館に来るきっかけづくりという位置づけで行っておりますので、子どもも大人も来たくくなるようなイベント内容を工夫しています。南部分館は3館の中で1番最初に開館しておりますので古い資料が多めです。限られたリソースと予算の中で、表にありますように行事にも力を入れておりますが、書架づくりに関しましても本と人との出会いを上手に演出できるよう、情報が古くなりすぎている資料等を除籍し、空いた空間を使っておもしろそうな資料の表紙見せ展示を増やしていきたいと思っています。南部分館の計画は以上です。

次に、中部分館についてご説明させていただきます。具体的には資料をご覧ください。目玉は6月開催予定の「こどもとしょかんまつり」の「おひぎにだっこのおはなし会スペシャル『みんなで交通安全』」です。警察の方にパトカーでご来館いただき、おはなし会の後で、乳幼児の保護者向けに交通安全のお話をさせていただきます。その後、警察官の制服を着てパトカーと一緒に記念写真を撮る予定です。このようなイベントを通して、図書館の利用促進を図りつつ命を守るということを学んでいただけたらと考えております。また、今年度、ほっぷ倶楽部が文化会館に引っ越してきたことをきっかけに、そこに通っている中学生2名の職場体験学習を受け入れしました。これをきっかけに今後もお役に立てることはないかと模索しています。以上です。

## 【会 長】

ありがとうございました。事業計画等につきましてご説明がありましたが、アイデアたっぷり盛沢山なイベント計画。委員の皆様、ご質問がありましたら出してください。子どもたちと関わっておられるB委員、何かありましたらお願いします。

## 【委員B】

ほっぷ倶楽部と図書館との関わりに驚きました。もう少し詳しくきかせてください。

## 【事務局】

中学生の職場体験の様子をご覧になったほっぷ倶楽部の先生から、倶楽部に通っている中学2年生にも職場体験させてもらえないかとお相談いただきました。その際「日程が合うところで受け入れさせていただきます」とお返事しましたところ2名の生徒さんの受け入れが実現しました。生徒さんには「知り合いに会うのが嫌」と不安な気持ちもあったようですが、平日の午前中は高齢者の方のご来館が多いため、知り合いに会うこともなく無事職場体験を行うことができました。今回の職場体験を通して、電子書籍も利用できることをほっぷ倶楽部の他の生徒さんにもお伝えするなど、少しずつですが交流をしています。

## 【会 長】

ほっぷ倶楽部について、知らない方もいらっしゃるのご説明をお願いします。

## 【教育長】

ほっぷ倶楽部のほっぷは、「ホップ・ステップ・ジャンプ」のホップです。引きこもりを防ぐ目的で碧南市独自で作りました。学校には行けないが他の所なら行ける子どもたちに通ってもらい、そこから次の段階にステップして、学校への通学につなげていけるといいなという思いで命名しました。初現在、10名くらい通っています。その他に、ほっぷ倶楽部には通えないけれど、1対1なら話せるという子は学校教育課の横に適応教室というものを設置していて、そこに通っています。昨今では、不登校は止められない現象、不登校の児童・生徒は全国で30万人と言われるほど多い。碧南市も例外ではありませんが、いろいろな手立てを講じて、何とか全国平均の半分くらいの割合で不登校の児童・生徒の人数は推移しております。どこの自治体でも対応を模索している中で、文部科学省も「学校だけが学びの場ではない」と言って民間の取り組みを認め始めています。その1つにほっぷ倶楽部があります。小学校1年生から中学3年生の子が通っています。教員免許保持者1名、アシスタント1名で運営しており、空間的には仕切りを入れて、それぞれの能力にあわせて勉強できるようにしています。

## 【会 長】

不登校対策に前向きな取り組みがあり、図書館との関りもあることが分かりました。教育委員会で相談の取り組みをしていらっしゃるC委員さんからお話を伺えたらと思います。

## 【委員C】

以前勤めていた学校でほっぷ倶楽部の生徒が学校の相談室に通えるようになり、自身で進路を決定して次のステージに進んだという事例もありました。

以前までは、ほっぷ倶楽部の子は職場体験には無縁でしたが、職場体験の機会を設けていただけで、貴重な経験ができ、電子書籍も使えるようになって有難いことだと思います。また、図書館をお願いして、市内の小学校での朝の読書の時間の本を用意していただいたり、教員からの相談に応じて図書館を利用した調べ学習の機会を設けていただいたり、本を貸していただいたりもしています。昨今の学校教育は、タブレットを使っての電子ベースの学習も進んでおりますが、図書館資料を使っての紙ベースの学習も合わせて行なっておりますのでこの場をお借りして紹介させていただきます。

## 【会 長】

ありがとうございました。子どもさんに対する図書館の取り組みについてよくわかりました。今の時代は、ご自身で図書館に出向くことができないようなシニア層の方もいらっしゃいます。民生委員の方もご尽力しておられますが、そういう方が地域にいらっしゃるということにも目を向けていく必要があるのかなあとと思います。それと、資料にあります「市民病院ミナミルーム訪問」というのは、市民病院の1階のエレベーターの手前にある本が置いてある小さいお部屋のことでしょいか。

## 【事務局】

助産師さんが新生児のお母さんにいろいろお話されるミナミルームという教室がございまして、そちらにうかがって読み聞かせの大切さや方法についてお話させていただくというもので、図書の貸出とは別の取り組みになっています。

## 【会 長】

いろいろな取り組みをされていることがよくわかりました。活動をとおして皆さんに楽しんでいただける図書館になるといいですね。夜の図書館探検というのを聞いて、子どもの頃、地域での肝試しでワクワクしたのを思い出しました。素晴らしいスタッフがそろって見えるので知恵をしばって、これからも素晴らしい企画をお願いします。

他に質問もないようですので、その他に移ります。

## 【委員D】

その他ということで、図書館友の会についてお話をさせていただきます。友の会は30数年続いてきましたが、来年で休止する方向で動いています。理由は、メンバーの高齢化です。74歳が最年少という現状です。友の会はボランティア団体で、読書グループなどの文化サークルを中心に派生していてメンバーを募集していますが、後継メンバーが増えていかない。友の会の大きなイベントとしては「音楽と朗読の夕べ」と「図書館バザー」があります。バザーの際には100名くらいの方にご協力いただいているのですが、中心となって運営していくための事務局役員の引き受け手がいません。古文書を読む会や郷土史の会などの文化サークルも高齢化が進んでいて、活発にメンバー募集をする動きもないので、今後は、図書館が中心となってサークル活動を広げていってけるとありがたいと思っています。

## 【会 長】

ありがとうございました。今、活動していらっしゃるサークルを止めてしまうということでしょうか。

## 【事務局】

友の会に関しては、来年度で休止させていただくということで合意しております。今まで開催していただいていたイベントに関して、どのようにしていくかについては、来年度中に検討していく予定です。

## 【会 長】

ありがとうございます。E委員、PTA関係で何かありましたら一言お願いします。

## 【委員E】

昨今のインターネットの普及により、小学生以上の子どもは活字離れが進んでいます。なので、0歳から未就園児対象のイベントは人気があるのかなと思います。私は、少年野球の監督をしていますが、活字離れと同時にスポーツ離れも進んでいるように思いますので、スポーツ分野と図書館とタッグを組んで何かできるといいなあと思いました。

## 【会 長】

時代の流れの変化の中で、いろいろな立場での課題があるようですが、前向きに楽しみながら工夫できるといいなあと思います。F委員、何か一言お願いします。

## 【委員F】

図書館というのは、教育施設でありながら社会福祉にも貢献しておられることがあらため



てよくわかりました。「そこへ行くのが楽しくなるような図書館をめざして」という基本方針を掲げていらっしゃるって、現在、10年計画の6～7年目、後期に入っている。私自身、仕事をしていて世の中の変化の速さを感じております。10年スパンでの計画を立てるのは大切ですが、毎年、見直す必要がある。今年は何をするのか、来年は何をするのか、毎年、変わっていくように思います。それが、図書館の運営に当てはまるかどうかはわかりませんが、そんなことを感じながら進捗状況についてうかがってございました。これだけ幅広い活動を限られたスタッフさんと予算の中で進めていらっしゃるは大変なご苦労があたりだろうと素人なりに感じております。私もシニア世代になってまいりまして、図書館のスタッフさんはじめ同世代の方たちと、この変化の速い社会の中で何をどのように勉強していけばよいのかを考えるべき時期にきておりますが、そんな中で、図書館が大きな存在になっていただけるのではないかと思いました。

### 【会 長】

ありがとうございます。G委員、いかがでしょう。

### 【委員G】

お話を聞いて、いろいろな工夫をされていることがわかりました。素晴らしいイベントがたくさんありますので、上手にPRして多くの方に知っていただきたいと思いました。コロナ禍におきましてもトラブルなく運営されてこられたことに敬意を表したいと思えます。

### 【会 長】

ありがとうございました。議題といたしましては以上となります。